【調査研究】

わが国の中学生による成人喫煙率の過大評価とその関連要因について

加治 正行[1)] 菅原 照[1)]

要　旨

目　的：

近年わが国の中高生の喫煙経験率は著明に低下し、高校 3 年生では男女とも数%になっているが、それに比べて 20 歳代の喫煙率はかなり高いことから、高校卒業後に喫煙を開始する者が多いと考えられる。その要因の一つとして、生徒たちが「大人の多くが喫煙している」と錯覚していることが背景にある可能性が考えられる。そこで、わが国の中学生が大人の喫煙率をどの程度と推測しているのか、アンケート調査によって検討した。

方　法：

著者が中学校で喫煙防止授業を実施した際にアンケート調査を行い、家族の喫煙状況、生徒の受動喫煙の有無、生徒自身が将来喫煙すると思うか否か等とともに、「おとなの何%くらいの人がタバコを吸っていると思うか」を質問して回答を解析した。

結　果：

中学 1 年生 323 名、2 年生 1035 名、3 年生 171 名から回答を得た。喫煙者がいる家庭は全体の 39.7%で、喫煙する父親がいる生徒は 31.1%、喫煙する母親がいる生徒は 12.1%であった。成人喫煙率の推測値の平均は、男子生徒では男性 54.0%、女性 36.6%、女子生徒では男性 58.9%、女性 40.9%と、男性、女性ともに女子生徒のほうが有意に高かった。また、喫煙者がいる家庭の生徒の推測値は、いない家庭の生徒の推測値よりも有意に高かった。

結　論：

わが国の成人喫煙率は、最新の調査で男性が 25.6%、女性が 6.9%と報告されているが、中学生が推測する成人喫煙率は実態からかけ離れた高値であった。また、男子生徒よりも女子生徒による推測値のほうが高値であった。

キーワード：成人喫煙率、アンケート調査、喫煙防止教育

緒　言

わが国の中学生、高校生の喫煙実態については、1996年以来経年的に調査が実施されてきたが、それによると1996年には喫煙経験率（一度でも喫煙したことがある者の割合）が中学1年生の男子で29.9%、女子で16.7%、高校3年生の男子で55.6%、女子で38.5%（いずれも紙巻きタバコのみの数値）であったのに対し[1)]、最新の調査が実施された2021年には中学1年生の男子で紙巻きタバコが

1)静岡社会健康医学大学院大学

責任者連絡先：加治正行
（〒420-0881）静岡市葵区北安東4-27-2
静岡社会健康医学大学院大学
Tel: 054-295-5419　Fax: 054-248-3520
E-mail: mkaji@s-sph.ac.jp

論文初回提出日：2025年5月16日

2.1%、加熱式タバコが0.5%、女子で紙巻きタバコが0.7%、加熱式タバコが0.4%、高校3年生の男子で紙巻きタバコが3.9%、加熱式タバコが2.1%、女子で紙巻きタバコが1.9%、加熱式タバコが1.2%と、いずれもこの四半世紀の間に著明に減少した[2)]。

ところが厚生労働省の令和5年国民健康・栄養調査によれば、2023年の20歳代の喫煙率は男性が20.6%、女性が5.2%であり、高校3年生時の喫煙率に比べて顕著な増加がみられている[3)]。このことは高校を卒業してから数年の間に喫煙を開始する者が多いことを示しており、わが国の学校での喫煙防止教育の効果が問われる事態とも言えよう。

多くの若者が高校卒業後に喫煙を始める要因として、著者らは、子どもたちの多くが幼い頃から日常的に大人が喫煙する姿を目にしているため、喫煙を大人の自然な行為と感じ、「大人の多くが喫煙している」と錯覚していることが背景にあるのではないかと考えた。このような錯誤は、たとえ喫煙防止教育を受けてタバコの有害性を認識していたとしても、子どもたち自身が心理的抵抗なく喫煙を開始することにつながると考えられる。

そこで今回、わが国ではどのくらいの大人が喫煙していると中学生が想像しているのかについて、アンケート調査によって検討した。同時に家族の喫煙状況、家庭内での中学生の受動喫煙の実態についても調査を行った。

方　法

１．対象者と調査方法

静岡市では市健康づくり推進課が市内の中学校向けに外部講師による喫煙防止授業を推奨しており、希望する中学校へ講師（市からの委託を受けた医師、保健師、看護師、元学校教諭など）を派遣している。

このたび講師派遣の依頼を受けて著者らが2023年11月から2024年11月にかけて喫煙防止授業に出向いた静岡市内の公立中学校9校の生徒1,791人を対象にアンケート調査を実施した。アンケートは喫煙防止授業の前日までに各学校で実施してもらい、著者が喫煙防止授業当日に受け取って持ち帰り、集計した。

２．調査内容

アンケートでは、「日本では、おとなの何%くらいの

これはタバコについての皆さんの考えなどを聞くアンケートです。
答えたくない質問には答えなくてもかまいませんので、ご協力をお願いします。

★あなたは何年生ですか？　　（　　）年生
★性別は？　　［ 男子　・　女子 ］

問１．　日本では、おとなの何パーセントくらいの人がタバコを吸っていると思いますか？　近いと思う数字に〇をつけてください。
・おとなの男性では、
　　［１０・２０・３０・４０・５０・６０・７０・８０・９０ ］パーセント
・おとなの女性では、
　　［１０・２０・３０・４０・５０・６０・７０・８０・９０ ］パーセント
問２．　あなたの家では、火をつけないタバコ（電子タバコ・アイコスなど）を吸う人がいますか？
（同じ家に住んでいる家族についての質問です）
　　１）だれもいない
　　２）いる　→　それはだれですか？（番号に〇をつけてください。複数回答可）
　　1. お父さん　　2. お母さん　　3. おじいさん　　4. おばあさん
　　5. お兄さん　　6. お姉さん　　7. その他の人（　　）］
問３．　あなたの家では、ふつうの（火をつける）タバコを吸う人がいますか？
　　（同じ家に住んでいる家族についての質問です）
　　１）だれもいない
　　２）いる　→　それはだれですか？（番号に〇をつけてください。複数回答可）
　　1. お父さん　　2. お母さん　　3. おじいさん　　4. おばあさん
　　5. お兄さん　　6. お姉さん　　7. その他の人（　　）］
問４．　あなたは、家の中でタバコのけむりを吸ってしまうことがありますか？
　　１）ほとんど毎日ある
　　２）1週間に何回かある
　　３）1カ月に何回かある
　　４）ない・ほとんどない

図１．アンケート調査票

人がタバコを吸っていると思いますか？」と質問し、男性、女性についてそれぞれ10%きざみの数字の中から選択してもらった。

家族の喫煙状況については、「火をつけないタバコ（電子タバコ・アイコスなど）」（新型タバコ）と「ふつうの（火をつける）タバコ」（紙巻きタバコ）に分けて質問した。また、生徒自身の家庭内での受動喫煙の実態について、家の中でタバコの煙を吸ってしまうことがあるか否かを、「ほとんど毎日ある」「1週間に何回かある」「1ヵ月に何回かある」「ない・ほとんどない」の4つの選択肢の中から選んでもらった（図1）。

３．解析方法

統計学的検討にはMicrosoft Excelの「分析ツール」を使用し、2群間の有意差についてStudent’s t testにより検討を行った。有意水準は5%未満とした。

４．倫理的配慮

本研究は静岡社会健康医学大学院大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（2023年9月22日承認・承認番号SGUPH_2023_004）。

アンケート調査に先立って保護者の承諾を得るため、調査の内容や目的、個人が特定されることはないこと、調査への協力は任意であることなどを文書あるいはSNS等を通じて学校から保護者へ事前に通知してもらった上で生徒へのアンケートを実施した。研究への参加についてはアンケート用紙の提出をもって同意を得たものとした。

結　果

中学1年生は3校で323人（男子176人、女子146人、性別無回答1人）、2年生は6校で1035人（男子534人、女子492人、性別無回答9人）、3年生は1校で171人（男子88人、女子81人、性別無回答2人）の合計1,529人から回答を得た（回収率85.4%）。

回収した調査票は全て解析の対象としたが、一部の質問項目が無回答の調査票については、回答された項目のみを解析対象とし、無回答の項目については解析対象とせず算入しなかった。そのため、質問項目ごとに回答数が異なることとなり、有効回答率は83.5%から84.4%であった。

家庭内の喫煙者の有無について回答した1,510人のうち、「喫煙者がいない」と回答した者は911人（60.3%）、「喫煙者がいる」と回答した者は599人（39.7%）で、喫煙しているタバコの種類別にみると、「家族が紙巻きタバコのみを吸っている」という回答が153人（全家庭のうち10.1%）、「家族が新型タバコのみを吸っている」という回答が286人（同18.9%）、「家族が紙巻きタバコ、新型タバコの両方を吸っている（同一人が両方を吸っている場合と、複数の家族がそれぞれ別の種類のタバコを吸っている場合を含む）」という回答が160人（同10.6%）であった。

父親の喫煙については、「紙巻きタバコのみを吸っている」という回答が124人（喫煙率8.2%）、「新型タバコのみを吸っている」が268人（同17.7%）、「両方のタバコを吸っている」が77人（同5.1%）で合計469人（同31.1%）であった。母親の喫煙については、「紙巻きタバコのみを吸っている」という回答が52人（喫煙率3.4%）、「新型タバコのみを吸っている」が110人（同7.3%）、「両方のタバコを吸っている」が20人（同1.3%）で合計182人（同12.1%）であった。

生徒の家庭内での受動喫煙に関して回答した1,512人のうち、「ほとんど毎日ある」という回答は123人（8.1%）、「1週間に何回かある」は128人（8.5%）、「1ヵ月に何回かある」は108人（7.1%）、「ない・ほとんどない」は1,153人（76.3%）であった。一方、喫煙者がいる家庭の生徒を対象に集計したところ、回答した592人のうち、「ほとんど毎日ある」という回答が121人（20.4%）、「1週間に何回かある」が118人（19.9%）、「1ヵ月に何回かある」が95人（16.0%）、「ない・ほとんどない」が258人（43.6%）であった（図2）。

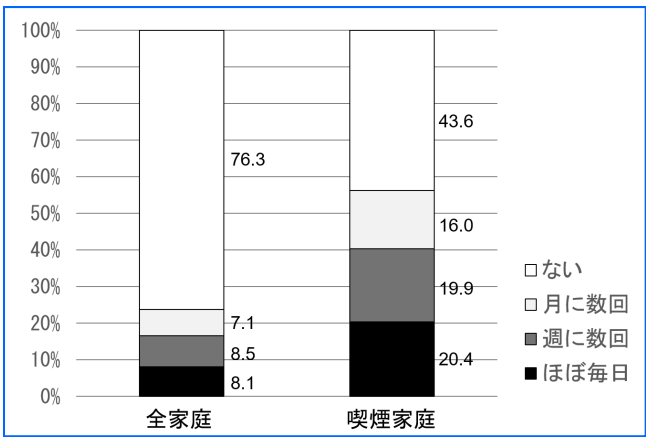

図２．中学生の自宅での受動喫煙の頻度

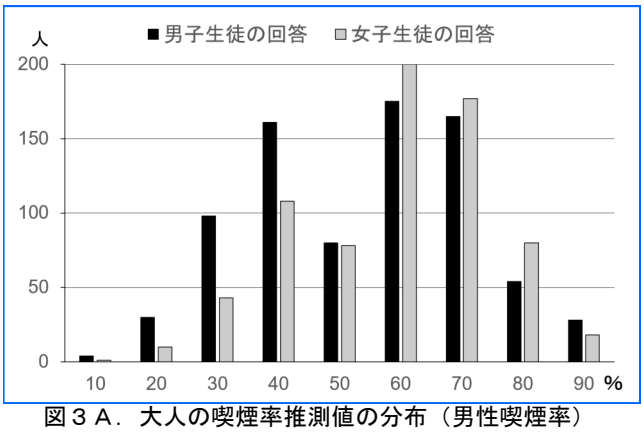

図３Ａ．大人の喫煙率推測値の分布（男性喫煙率）

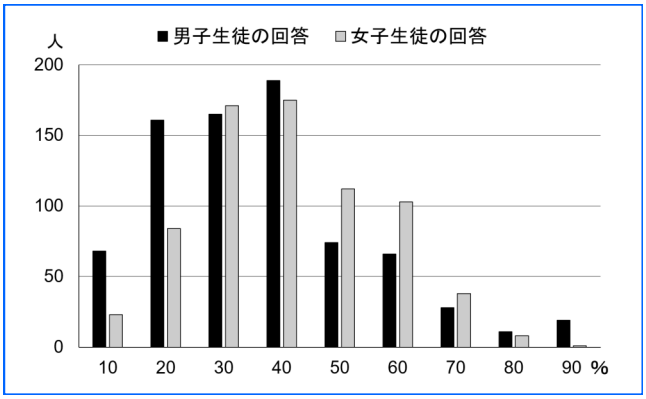

図３Ｂ．大人の喫煙率推測値の分布（女性喫煙率）

「日本では、おとなの何%くらいの人がタバコを吸っていると思いますか？」という質問への回答を集計したところ、男子生徒、女子生徒ともに最頻値は男性が60%、女性が40%であった（図3A・B）。そして、それぞれの推測平均値は、男性の喫煙率については男子生徒で54.0%、女子生徒で58.9%と有意差が見られた（p<0.001）。女性の喫煙率についても男子生徒で36.6%、女子生徒で40.9%と有意差が見られた（p<0.001）。

喫煙者がいる家庭（喫煙家庭）の生徒と喫煙者がいない家庭（非喫煙家庭）の生徒とに分けて比較したところ、男子生徒でも女子生徒でも喫煙家庭の生徒の推測値のほうが男性、女性とも有意に高値であった（表1）。

考　察

現在のわが国の成人喫煙率は、男性が25.6%、女性が6.9%と報告されており[3]、今回のアンケートの選択肢の中では男性が30%、女性が10%という数字が最も近いものであるが、中学生が抱いている平均的イメージは、男性が約60%、女性が約40%と非常に高い値であった（図3A・B）。

一般に青少年期は同世代や成人の喫煙率を過大に評価する傾向があると記載された文献はあるが[4)5)]、実際に子どもたちが推測する成人喫煙率の数値に関する報告は見当たらない。

子どもたちが推測する成人喫煙率が実態からかけ離れた高値となる要因としては、タバコが常に身近に存在する環境（自動販売機やコンビニエンスストアなど）や、子どもたちが幼い頃から日常的に喫煙する大人の姿を目にしているために大人の喫煙をごく普通の光景と認識しやすいことなどが考えられる。この点については、非喫煙家庭の生徒に比べて喫煙家庭の生徒で男子、女子ともに推測値が有意に高かったことからも裏付けられよう（表1）。また、成人男性の喫煙率に比べて成人女性の喫煙率のほうが、中学生の推測値と実態との乖離が大きかったが、これは実生活の場だけでなく、テレビドラマや映画などでの女性の喫煙シーンが大きな影響を与えている可能性も考えられる。実際に海外での研究で、映画の喫煙シーンを多く見た子どもほど喫煙を開始する率が高かったとの報告があり[6)-8)]、スクリーン上での有名人の喫煙シーンは、子どもたち自身の喫煙を誘発する作用を有する[9)]くらいに、成人の喫煙モデルとして子どもたちの脳裏に深く刻み込まれるものと思われ、成人喫煙率の過大な推測につながっていると考えられる。さらに、今回の調査では、男子生徒に比べて女子生徒のほうが男性喫煙率推測値、女性喫煙率推測値ともに有意に高かった。海外での研究で、スクリーン上の喫煙シーンが未成年者の喫煙開始を誘発する影響力は、男子に比べて女子のほうが大きいことが示されており[7)10)]、わが国でも女子生徒のほうがスクリーン上のファッションなどへの関心の強さとともに喫煙シーンの影響も受けやすい可能性が考えられる。

生徒たちが大人の喫煙に関して抱いているこのようなイメージ（「大人の多くが喫煙している」という錯誤）

表１．生徒が推測している大人の喫煙率
（家庭内の喫煙者の有無による差）

	男子生徒		女子生徒	
	男性喫煙率推測値	女性喫煙率推測値	男性喫煙率推測値	女性喫煙率推測値
喫煙家庭	58.9%（n=315）	40.8%（n=312）	63.6%（n=275）	43.8%（n=274）
非喫煙家庭	50.4%（n=467）	33.7%（n=456）	55.9%（n=437）	39.0%（n=438）
	p<0.001	p<0.001	p<0.001	p<0.001

は、生徒自身の将来の喫煙開始への心理的抵抗を弱める可能性が高い。したがって、喫煙防止教育の中で生徒たちにわが国の成人喫煙率を正しく伝え、「喫煙する大人はごく少数である」と強調することも、生徒たちの将来の喫煙を防ぐために重要なことと考えられる。

また、家庭内での受動喫煙について、喫煙家庭の生徒では「ほとんど毎日ある」「1週間に何回かある」「1ヵ月に何回かある」という回答の合計が半数を超えていることは深刻な問題で、喫煙防止教育を通じて生徒に受動喫煙の危険性を理解してもらい、それを家族に伝えてもらうことも重要であると考える。

結　語

わが国の中学生が想像している成人の喫煙率は男性が約60%、女性が約40%と、いずれも実態からかけ離れた高値であった。この要因としては、タバコが常に身近に存在する環境や、子どもたちが幼い頃から日常的に喫煙する大人の姿を目にしていること、またテレビドラマや映画などでの喫煙シーンの影響などが考えられる。生徒たちが大人の喫煙に関して抱いているこのようなイメージは、生徒自身の将来の喫煙の誘因になる可能性があると考えられ、それを防ぐために生徒たちに大人の喫煙率を正しく伝えることが重要であると考える。

アンケート調査にご協力くださいました中学校の生徒さんたち、担任教諭、養護教諭の先生方に感謝申し上げます。また、本研究の倫理審査及び英文要旨作成に当たり貴重なご助言を賜りました静岡社会健康医学大学院大学講師・八田太一先生、並びに英文要旨作成に当たり懇切丁寧にご指導くださいました静岡県立大学薬学部准教授・Philip Hawke先生に深謝申し上げます。

本研究で開示すべき利益相反（COI）状態はない。

文　献

1) 尾崎米厚、蓑輪眞澄、鈴木健二、他. 1996年度未成年者の喫煙行動に関する全国調査. 厚生の指標 1999;46:16-22.
2) 金城文、尾崎米厚、桑原祐樹、他. 令和３年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）2021 年中高生の喫煙、飲酒等生活習慣に関する全国調査 https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202109019A-buntan1_0_1.pdf（2025年5月16日アクセス可能）
3) 厚生労働省令和5年国民健康・栄養調査結果の概要 https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001338334.pdf（2025年5月16日アクセス可能）
4) Koplan JP, Marks JS, Eriksen MP, et al. Effective educational strategies to prevent tobacco use among young people. Edited by Rothenberg RB, Pechaek TF, Chaloupka FJ, et al. Reducing Tobacco Use: A Report of the Surgeon General. Atlanta, Georgia: U.S. Department of Health and Human Services, Centers for Disease Control and Prevention, National Center for Chronic Disease Prevention and Health Promotion, Office on Smoking and Health. 2000;61-94.
5) 国立がん研究センター. ジェンダー、女性とたばこの流行 https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/tobacco_policy/project/genderandtobacco/WHO_gender.pdf（2025年5月16日アクセス可能）
6) Dalton MA, Sargent JD, Beach ML, et al. Effect of viewing smoking in movies on adolescent smoking initiation: a cohort study. Lancet 2003;362:281-285.
7) Charlesworth A, Glantz SA. Smoking in the movies increases adolescent smoking: A review. Pediatrics 2005;116:1516-1528.
8) Morgenstern M, Sargent JD, Engels RCME et al. Smoking in movies and adolescent smoking initiation: longitudinal study in six European countries. Am J Prev Med 2013;44:339-344.
9) Sargent JD. Smoking in movies: Impact on adolescent smoking. Adolesc Med 2005;16:345-370.
10) Distefan JM, Pierce JP, Gilpin EA. Do favorite movie stars influence adolescent smoking initiation? Am J Public Health 2004;94:1239-1244.

Adolescents greatly overestimate the rate of adult smoking in Japan: A cross-sectional survey of junior high school students

Masayuki Kaji* and Akira Sugawara*
*Shizuoka Graduate University of Public Health

Objectives

In recent years, the prevalence of smoking initiation among junior and senior high school students in Japan has dropped significantly, to only a few percent of both males and females. However, the smoking rate among people in their 20s remains significantly higher, at 20.6% in men and 5.2% in women, suggesting that many people start smoking after high school graduation. The misperception that "most adults smoke" could therefore weaken the effects of school-based smoking prevention education. This study quantified junior high school students' estimates of adult smoking prevalence and examined whether those estimates vary according to household smoking exposure.

Methods

From November 2023 to November 2024, a self-administered questionnaire was completed in nine public junior high schools in Shizuoka City immediately before smoking prevention classes. Students indicated, in 10% increments, what proportion of Japanese adult men and women they believed smoked. Household smoking status, parental smoking, and in-home second hand-smoke exposure were also recorded. Mean estimates were compared with unpaired t-tests ($\alpha = 0.05$).

Results

Of 1,791 eligible students, 1,529 (85.4 %) provided responses (male = 798, female = 721, missing = 10). Overall, 39.7 % lived with at least one smoker. Male students estimated that 54.0 % of adult men and 36.6 % of adult women smoke, and female students estimated 58.9 % and 40.9 %, respectively. Both sex differences were significant ($p < 0.001$). Students from households with smokers consistently provided higher estimates than those from households without smokers ($p < 0.01$ for both sexes).

Conclusions

National surveillance data show that 25.6 % of adult men and 6.9 % of adult women in Japan currently smoke; however, our results indicate that junior high school students greatly overestimate the prevalence of adult smoking, with those in our study placing it at more than twice the actual rate. School-based smoking prevention classes should incorporate accurate prevalence data and address household smoking to help correct these normative misperceptions and prevent post-graduation uptake.

Key words: adult smoking rates, questionnaire survey, smoking prevention education